

(レジメ) 新ちよぼゼミ

## 鈴木眞一福島県立医大教授証人尋問 & 災害列島改造論 (岩波月刊誌『世界』)

1. (報告) (2. 14) 「子ども脱被ばく裁判」傍聴記 (1) 鈴木眞一福島医大教授証人尋問：隠して隠して隠して、逃げて逃げて逃げて、あとはつまらないおしゃべりに終始した鈴木眞一教授、ウソらしき発言もチラホラの誠意なき証言- いちろうちゃん  
のブログ

<http://tyobotyobosiminn.cocolog-nifty.com/blog/2020/02/post-dfa2fc.html>

2. 災害列島改造論 (岩波月刊誌『世界 2020. 3』)

(1) 大地動乱・人口減少時代の成長信仰が衰亡を招く、超広域大震災にどう備えるか (石橋克彦『世界 2020. 3』)

大地震活動期突入＝南海、東海、東南海、首都直下、内陸 各M7～9

東京一極集中 ⇒ 地方分散型、FEC自給圏、農林水産業と地産地消

国土強靱化・公共事業 ⇒ 自然林、水田・棚田、地域コミュニティ

真の防災は「世直し」である

(但し、「脱成長」「定常経済」指向は「行き過ぎ」＝サービス経済・省エネ他)

(2) 災害で誰が犠牲になるのか、行政責任と予防政策 (宮入興一『世界 2020. 3』)

災害弱者 (高齢、障害、低所得、外国) ＝震災時も震災後も深刻ダブルパンチ

背信の復興行政＝東日本大震災の復興資金使途一覧表 (2011～2015) P98

事前復興の勧め

(3) 水害多発の時代に命を守る：滋賀県流域治水条例の挑戦から (嘉田由紀子『世界 2020. 3』)

流域治水総合対策＝巨大ダム依存からの脱却 (ダムは人工的「鉄砲水」製造機)

ハザードマップが防災対策のスタート地点

2期8年の滋賀県政で実現＝妨害し続けた自民党滋賀県議達の旧態依然体質・利権 (堤防補強・拡充や河川敷整備など、河川の低コストハード対策を軽視してないか?)

(4) 「事前復興計画」による社会変革 (五十嵐敬喜『世界 2020. 3』)

事前復興の必要不可欠性、住民参加 (愛郷心と住民自治)、迅速さ

宮城県のひどさと岩手県のまともさ

事前復興計画とその困難 ⇒ 復興庁の新しい仕事

(原発震災に対しては災害救助法ではない「新法」が必要ではないか?)